

町長発！『がんばるトーク』

町長 上川 元張



9月18日にトヨタモビリティ新大阪(株)(以下「トヨタモビリティ」という。)の寝屋川支店の竣工式に参列しました。この店舗は、トヨタモビリティが若桜町内の社有林のスギ材を用いて新築したもので、建築に携わった町内の林業関係者とともにご招待いただきました。

「大都会に若桜の森を再現する」という建築のコンセプトを実現した素晴らしい建築物でした。玄関につながる車寄せの大庇の天井に張られた木材の梁が、まず目を惹きます。若桜杉のCLT(集成材)です。玄関を入るとさらに、若桜の山並みを模したとされる梁が店内の奥へと幾層にも広がります。梁も複数方向に交差して立体的に組み合わされ、3D加工技術を駆使して構造が強化されています。見事な梁に目を奪われますが、柱にも壁面の化粧板にも若桜の木材がふんだんに使われています。商談用の個室には、壁にタペストリー風の装飾が施され、黄緑と深緑の2色の苔で若桜の山並みを表現し、(株)ウッドイが描かれています。また社有林のある加地の奥の川のせせらぎをイメージして、雨水も雨樋を経由して石組みの中を流すなど細かい意匠を凝らしています。

このプロジェクトは、中高層木



▲久保社長(左から2人目)及び町内林業関係者と

231㎡、300本を超えるスギ材は八頭中央森林組合が伐採、(株)ウッドイが若桜で製材し、石川県小松市内の工場にCLTに加工して、約1年2カ月の工期で完成されました。

トヨタモビリティはトヨタ車の販売を手掛ける会社ですが、もとは繊維業の老舗「久保惣」を前身とする名門企業です。2代目社長久保惣太郎氏が1930年頃に加地に160haの山林を購入、代々の社長も植林や整備に訪れていたそうです。皇居の豊明殿の天井板に使用された吉川杉の産地から近く、一帯が銘木の産地であることも社内でも共有されていたようです。

令和4年9月に現社長の久保行央氏が来庁され、温室効果ガスを排出する自動車産業として、伐期を迎えた社有林を活用し、エネルギーの地産地消や持続可能な森林経営で町に貢献したいと、木質バイオマス発電施設の設置をご提案されました。

造建築分野のトップランナー、(株)竹中工務店がその技術の粋を尽くして設計・施工したものです。木材総利用量

た。約2年間検討を重ねた結果、昨今の社会経済情勢では採算が困難との判断で見送りとなりましたが、並行して検討されていた本プロジェクトが実現したものです。トヨタモビリティには、2年前から顧客向けに若桜米をたくさんご購入いただくなど、他にも本町の活性化にご協力いただいています。今後ともこうした縁を大切にしたいと思っています。

このたびのプロジェクトは、若桜材のPRはもとより、林業・木材産業や地球温暖化対策にとっても大きな意義があります。スギで約60年とされる伐期を過ぎた森林は、温室効果ガスの吸収効果が低下するため、「伐って使って植えて育てる」循環型林業で森林を若返らせることが、森林の持続的な維持と活用のためにも必要です。そのためには「使う」、つまり木材利用の拡大を図る必要がありますが、将来的に人口減少により住宅着工の減少が見込まれる中で、非住宅分野での木材需要の開拓が課題となっています。今回の取組が、新たな木造需要を喚起する起爆剤となることを期待します。



▲商談ブースの装飾